

チャーチスクールとは

札幌キリスト福音館 附属
札幌インターナショナル・クリスチャンスクール

SICS



- I 『なぜチャーチスクールをはじめなのか —— 現状理解』
- II 『チャーチスクールをスタートする理由』
- III 『チャーチスクール開校にあたり
～札幌インターナショナル・クリスチャンスクールの理念』

目 次

I 『なぜチャーチスクールをはじめなのか —— 現状理解』	・・・	3
II 『チャーチスクールをスタートする理由』	・・・・・・・・・・	4
1. 子どもは誰のもの？	・・・・・・・・・・	4
2. 子どもを育てるのは誰か？	・・・・・・・・・・	6
3. なぜ教会がチャーチスクールをするのか？	・・・・・・・・・・	8
III 『チャーチスクール開校にあたり』		
「札幌インターナショナル・クリスチャンスクール」の理念	・・・	11

I

『なぜチャーチスクールをはじめめるのか』

現状理解

■チャーチスクールの必要性■

公教育への疑問からではありません。

教会に来ている教師たちは多くの時間を使って生徒を指導しています。
教師の多くは情熱をもって生徒を育てようとしています。

ではなぜ**公教育への疑問**が起こってきているのでしょうか。

ひとつの大きな理由は、**マスコミによる公立学校への非難**です。

マスコミは、いつでも学校や教師を非難してきました。その多くは展望のない的はずれの非難でした。
マスコミに影響された多くの父兄や子どもたちは、学校に対して良いイメージをもたなくなりました。

勉強は誰にとっても面白いものではありません。

特に基本の学びは、繰り返し覚え、体で覚えることが重要です。

そのような勉強を、自分から進んでする子供は、そう多くはありません。

教育には**強制力＝権威**が必要です。しかし、マスコミが行なってきた学校や教師への種々の非難により、
尊敬がなくなるケースが多くありました。**教師の強制力＝権威**が失われてきました。

そんな中で疲れを覚え、教師としての誇りを失ってしまった方々がいます。

子どもたちに熱心に関わってきた教師ほど、燃え尽きてしまうことがありました。

学校や教師が不十分だからチャーチスクールをスタートするものではありません。

学校ではいじめ、不登校、犯罪の低年齢化、外部からの侵入者による事件があります。

また、クリスチャンとして歩むために、心痛む偶像行事があります。

しかし、そのようなことが理由でチャーチスクールをはじめめるものではありません。

両親が子どもをよく理解し、子どもが強くなれば解決することです。

では、なぜチャーチスクールをスタートするのでしょうか。

II

『チャーチスクールをスタートする理由』

チャーチスクールをスタートする理由を3つの視点から見ていきます。

「子どもは誰のもの？」 「子どもを育てるのは誰か？」 「なぜ教会がチャーチスクールをするのか？」

1. 子どもは誰のもの？

ひとりの男性とひとりの女性を通して命は授けられます。

どのような状況の中で誕生する子どもであっても、神がすべての命の誕生を楽しみに待っておられます。

子どもは誰のものでしょうか。いくつかの考え方を見てみましょう。

A. 子ども自身のもの

1762年ルソーが教育論『エミール』を出版しました。ルソーは、子どもは子ども自身のものであり、子どもたちの自主性こそ大切なものだ、との主張を中心に行なっています。ルソーの教えの中では「性善説」が大きなカギになっています。子ども自身の中に育つ力があり、人為的に干渉しない時、自然に育っていくと考えました。

しかしこの考えの背景に、ルソー自身の家庭、彼の子どもとの関係が大きいことが分かります。ルソーには大きな二つの痛みがありました。彼は幼くして母を亡くし、父親は突然失踪しました。ルソーは捨てられました。親の愛情を感じながら育つということがありませんでした。青年期に貴族の夫人が母親役と恋人役をしました。後に、一時的な伴侶としてしか考えていなかった女性との間に5人の子どもを得ました。しかし、彼は5人とも孤児院に送り、自分の計画や生活を変えようとしませんでした。**子育てを放棄**しました。(この当時の社会ではめずらしいことではありませんでしたが。) そのような経験をしたルソーが書いた『エミール』が、後の教育に大きな影響を与えるようになりました。

彼の意識の中にあったのは、自分が捨てた子どもたちへの**贖罪の意識**であったと言われます。その思いの中から、子どもは子ども自身のものであると考えました。

親は子どもを権威をもって教えることはできない。子どもの**個性を強調**し、子どもの中にある育つ力をとどめないことが必要だと考えました。しかし、個性が強調されるものの、自分とは何か、何のために生まれてきたのか、生きる目的は何なのかを、**子どもは知りません**。そのような子どもが自分の個性をとらえ、個性をあらわすことは困難です。

自分の**目的を見いだせず**、いらだち、不安に支配され、突発的な怒りにより行動している姿を見ます。**自分の存在意味・存在目的を知らずに勉強に取り組む**わけで、学ぶ意味がわからないので勉強することの大切さが分からないケースがあります。子どもは親によって**愛情を与えられ、生きる意味や価値観、従順**を学ぶ必要があります。

B. 親のもの

親が自分の子どもにどう接していいのかわからず、溺愛するか虐待するかという極端なケースが増えていきます。また、自分の子どもを、まるでペットのように扱い、親自身の欲求を満たす道具として用いるケースも見られます。子どもの望みにかかわらず、小学生低学年で茶髪にしたり、ペアルックにして親が楽しんでいるというケースがあります。

C. 家のもの

「次は絶対男の子！」と極端に強調されるケースがあります。家を絶やさないように継承しなければならないという親の思いです。ひとりの子どもの命に焦点をあてた考え方ではありません。

D. 国のもの

かつて日本国民は「赤子」（せきし）と呼ばれました。これは国民が天皇の子どもであるという意味です。国家のものだから国家のために生き、死ぬのが最高の価値と考えられていました。

E. 教会のもの

子どもは教会のためにあるわけではありません。子どもたちが本来の目的を知り、生き生きと過ごせるように助け導きます。

F. 神のもの

子どもは神（創造主）が計画をもって、両親に預けられた神のものです。
子どもたちは無力で生まれ、神が選ばれた両親のもとで育てられます。
親は子どもによって、受ける者から与える者へと訓練され、成長を与えられます。
子どもたちから、喜びや励ましを受けます。
子どもは、**両親から価値観や従順を学びます**。畏れるべきものを畏れることを学びます。
生きていく力や、仕事をしていく知識や能力を伸ばします。
やがて子どもが成長した時、親から自立し、新しい家庭を作ります。
親は、子どもが巣立っていく姿を感動しながら見ます。
親は、もう一度夫婦単位で向き合い、それぞれの使命を自覚して生きていきます。
親は、決して子どもに「世話をしたから、老後の世話をするように」と言うことができません。
子どもたちから育てる喜びをもらいました。成長させてもらいました。それで十分です。
子どもは誰のものでしょうか。子ども自身のものでも、親や家や国家のものではありません。
子どもは神（創造主）のものです。
子どもたちは、自分の与えられた使命を知り、果たすために生きていきます。

■子どもを育てる■

育てることに視点をおいて考えてみます。
聖書にある箴言は教育の書です。箴言を通して、教育についての神の知恵と方法を知ることができます。
箴言には教育のスタートとして次のように書かれています。

- ◆主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。（箴言1：7）
- ◆謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである。（箴言22：4）

教育の初めは「**恐れるものを知る**」「**主を恐れることを知る**」ことです。言い換えると「**尊敬**」が教育の初めです。人を尊敬し、その人から学び成長した時、学んだことは「**富**」となり、「**誉れ**」となります。

2. 子どもを育てるのは誰か？

子どもを育てる責任は誰にあるのでしょうか。

A. 国家

国家つまり公教育が責任をもって子どもを育てるのでしょうか。学校に知識を教え、体力をつけることはできますが、本来の道德教育はできません。個々の教師により価値観は違い、子どもの人格に責任をもって教えることはできません。子どもに道德や価値基準を教えることができるのは親のみです。しかし、子どもに道德価値観を教えることを放棄している家庭が多くあります。教師まかせになってしまっています。子どもたちに何が大切かを教えるのは国家ではなく両親です。

B. 家（伝統）

現代社会の多くの場面で、長年にわたる経験が通用しなくなりました。コンピューターをはじめ、多くの機器は若い人の方が熟練しています。高齢者が権威をもって教えることができなくなりました。年輩者の知識が役に立たなくなりました。そんな中で、伝統を否定する状況が生まれました。残す伝統がなくなり、家を継ぐという考えは魅力あるものではなくなりました。

C. 地域

昼の時間、家庭に親がいることがめずらしくなりました。昼間、地域にいるのは高齢者と子どもになりました。親は忙しく、仕事で疲れているため、子どもにまで目を向けることができなくなりました。自分の子どもと話す時間すら取れない状況にあります。まして、他人の子どもを叱り、指導することなどできなくなりました。

D. 教会

イエス・キリストは学校を建てるようには言われませんでした。子どもを育てるのは、本来教会のすることではありません。

E. 両親

子どもを育て教え導くのは父と母の働きです。父と母を越えて教育はできません。
父母以上に誰も子どもに影響を与えることはできません。

- ◆わが子よ。あなたの父の訓戒に聞き従え。あなたの母の教えを捨ててはならない。(箴言1:8)
- ◆子どもらよ。父の訓戒に聞き従い、悟りを得るように心がけよ。(箴言4:1)
- ◆わが子よ。あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教えを捨てるな。(箴言6:20)
- ◆これをあなたの子どもたちによく教えこみなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。(申命記6:7)
- ◆子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。
「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、
「そうしたら、あなたは幸せになり、地上で長生きする。」という約束です。(エペソ6:1~3)
- ◆父たちよ。あなたがたも、子どもを怒らせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。(エペソ6:4)

■父と母の影響力■

ここで考えたいのは、子どもに対する父と母の影響力です。
特に**父親のリーダーシップ**です。リーダーとは**影響**を与える人のことです。
誰が子どもに影響を与えているのでしょうか。
誰が子どもたちの心をつかんでいるのでしょうか。
父と母が子どもに影響を与えなければなりません。
特に父親が家庭でリーダーとなる必要があります。

- ◆わが子よ。罪人たちがあなたを惑わしても、彼らに従ってはならない。もしも、彼らがこう言っても。「一緒に来い。われわれは人の血を流すために待ち伏せし、罪のない者を、理由もなくこっそりねらい、よみのように、彼らを生きたままでのみこみ、墓に下る者のように、彼らをそのまま丸のみにしよう。あらゆる宝物を見つけ出し、分捕り物で、われわれの家を満たそう。おまえも、われわれの間でくじを引き、われわれみなで一つの財布を持とう。」
わが子よ。彼らといっしょに道を歩いてはならない。あなたの足を彼らの通り道に踏み入れてはならない。彼らの足は悪に走り、血を流そうと急いでいるからだ。鳥がみな見ているところで、網を張っても、むだなことだ。彼らは待ち伏せして自分の血を流し、自分のいのちをこっそりねらっているのにすぎない。(箴言1:10~18)

3. なぜ教会がチャーチスクールをするのか？

(1) 家庭の力が衰えたからです。

A. 父親不在の社会構造

産業革命後、社会全体が父親不在の構造になっていきました。職場と住居が別になりました。父親は子どもが起きる前に出勤し、子どもが寝た後に帰宅します。子どもと時間を過ごすことができず、子どもに影響を与えることができなくなりました。自分の子どもの心をつかめていない父親が増えています。また、子どもたちの様子が分からないままでは決断することができず、母親が決断する立場になりました。父親の家庭でのリーダーシップはなくなり、責任者としての自覚が消えてしまいました。

B. 父親の役割理解の不足

父親の役割はリーダーです。家庭のことを決断し、最後まで責任をとることです。問題や課題から逃げないことです。しかし多くの家庭で、父親の役割は家族を養うこと、稼いでくることになりました。父親が稼ぎ、母親が決断するケースが増えて、子どもたち、特に**男の子のモデル**がなくなりました。父親は、リーダーとして子どもたちのモデルになる必要があります。

C. 母親の不在

多くの家庭で夫だけの給料では足りないと考えようになり、妻も働かざるを得ない状況になりました。また、社会に出ることが強調され、家庭にいる女性は一人前ではないと考えようになりました。両親とも不在の結果、子どもは家で**一人で過ごす**ことが多くなりました。兄弟だけで過ごすケースもあります。もはや、子どもに影響を与えるのは母親ではなくなっていました。

(2) 社会の影響が強くなった

A. 友人

一番多くの時間を過ごすのが、**同年代の子ども**になりました。
同年代の子どもたちは、互いにモデルになることはできません。
戒めあうこともできません。仲間はずれにならないように、合わせることが大事になります。
遊びが悪い方向にエスカレートしていくことがあっても、誰も止めることができません。
友人は遊ぶことはできても、互いを育てることはできません。

B. マスコミ、テレビ

テレビに出てくる芸能人やヒーローが最も影響を与える存在になりました。
芸能人の話していることは一般受けすることであり、偽悪的な発言がもてはやされます。
まじめに生きることや、悪いことを退けることが価値あることとは言いません。
努力することはカッコわるいことであり、まじめに生きるとはださいことになりました。
子どもは多くのアイドルが結婚前にセックスをし、**同棲**しているのを聞いています。
子どもができたためにやむなく結婚を決意するケースが多くあります。
そこから生まれてくるのは、覚悟のない、**準備のない家庭**です。結婚観を確立することが大切です。
アイドルの言葉を越える権威ある価値観が必要です。結婚までセックスをしないという考え方を確信することが必要です。しかし、子どもたちに影響を与えているのは、親ではなくタレントです。

C. 遊び

テレビゲームやインターネットの発達、そして影響力は、大人が想像するより大きくなりました。
インターネットに氾濫する情報を**取捨選択する目**が必要です。洪水のようにやってくる情報を判断する価値観を持っている必要があります。そうでなければ、情報の洪水の中で流されてしまいます。

(3) 学校（公教育）の限界

A. 主を畏れることを教えることができない。

「主を畏れることは知識の初めである。」 恐れるべき対象を、正しい形で恐れることが必要です。信頼することが必要です。そこから**尊敬や従順**な姿勢が生まれます。信頼や尊敬の心を持っている子どもたちは生き生きしています。畏れることや尊敬することがなくなる時、無気力になります。目的が分からないとき、自分の目の前の欲求を充足させることが**興味**の中心になります。

B. 進化論中心になっている。

「すべてのものは偶然にできた」「生きることには意味も目的もない」「今を楽しめばよい」という考え方が支配的になりました。進化論思想による教育は、ひとりひとりを生きているのは偶然と言います。自分に価値はあるかどうか分からない。生きる目的は分からないので、自分で目的を作らなければならないと言います。目的は作るものではなく、与えられるものです。

C. 継続して責任を持ってない。

人を育てるのは人です。一人の人が継続的に子どもを育てていく必要があります。学校教育では継続してひとりの子どもを、責任をもって育てることはできません。

(4) 教会は神の家族だからです。

互いに愛し合うことを実践するのが教会です。

どのように愛し合うのか、それはお互いが家族のようにして愛し合うのです。

子どもを教育することにおいて、親の権威が失われつつあります。

教会はチャーチスクールをすることを通して、親を支援し、子どもを育てることに協力します。

本来の家庭のあり方、子どもを教育する親の姿をもう一度取り戻し、モデルとして社会に提示していきます

■教育の目的について■

教育の目的とは、自分の使命を知り、労働（地を治める）することができるように、育て整えることです。

自分のすべき働きを成し遂げることができる人を育てることです。そのためには実践が必要です。

イエス・キリストの弟子訓練は、いつもいっしょに生活し、価値観を教えることでした。

イエス・キリストの弟子訓練は、知識を増やすことが目標ではなく、彼らが自分の使命を知り、使命を果たすことができるように育て整えることでした。育てるために一緒に過ごし、生活のすべてを弟子たちに見せました。

集団では知識の伝達はできても、人格の伝達はできません。つまり育てることは困難です。

チャーチスクールが家庭にとって代わって教育をすることはできません。

両親に協力して**統一された価値観・世界観**を全科目を通して教えます。

自分が愛されていること、価値ある存在であることを知るように育てます。

そういう意味で、両親への働きかけも、チャーチスクールの重要な要素に含まれています。

両親が確信をもって親としての働きができるように両親を助けます。

両親と協力して子どもたちを育てます。子どもたちを育てる責任は両親にあります。

チャーチスクールは両親に協力して子どもたちを育てます。

III

『チャーチスクール開校にあたり』

「札幌インターナショナル・クリスチャンスクール」の理念

◆教育目的

- ① 自分の存在目的が明確になり、
- ② 使命を果たすために、霊・心・体を訓練し、育て、
- ③ 社会に送り出す。

◆教育目標

神を愛し、隣人を愛する人になる。

- ① あなたの若い日に、あなたの創造者をおぼえよ。（伝道者の書12章1節）
・・・創造主を知り、愛する者になる。
- ② 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。（エペソ6章1節）
・・・親をはじめ、人を尊敬し、愛する者になる。
- ③ あなたがたは地の塩です。（マタイ5章13節）
・・・社会、経済、文化、家庭に影響を与えるリーダーになる。
- ④ あなたがたは世界の光です。（マタイ5章14節）
・・・世界に福音を伝える者になる。

◆方法 霊・心・体の成長

(1) 主が造られた自分を知る。

自分が創造主によって目的をもって造られ、愛されていることを知りながら、学びをしていきます。
自分が創造主に造られ愛されていることを確信している人は、他の人を同じように見ることができます。

(2) 主が造られた自然を知る。

創造の視点に立って、全科目を勉強していきます。

「これからの日本と世界を担う子どもたちが、全科目において熱心に学び、愛とゆるしを伝える新しい時代の青年へと成長します。」

(3) 主が導かれた歴史を知る。

歴史には意味があり、大事なメッセージがあることを知ります。
創造主が計画をもって造られた世界を、導かれた足跡を見ます。

<繰り返し訓練する>

それぞれに与えられた能力を発見し、繰り返し訓練していきます。
繰り返しの訓練のベースになるものは、聞く・読む・話す・書くことです。

また、すべてのプログラムを通して、教師やリーダーたちの指示に従う従順を学びます。仕事を通して責任感を養い、勤勉さを身につけていきます。

また、与えられた仕事を成し遂げることによって、完成の喜びを体験していきます。

「札幌インターナショナル・クリスチャンスクール」の運営

名称

(宗教法人)札幌キリスト福音館 附属
札幌インターナショナル・クリスチャンスクール

組織

理事会

設立の目的に基づき、教師が働きを円滑にできるように助け、運営に関する必要事項を決めます。

教師会

それぞれがもっている能力を発揮できるように、子どもたちの霊と心と体を、よいチームワークで育てます。

保護者会

スクールの目的を理解し、協力し、祈ります。

事務、施設管理、給食

教師に協力し、子どもたちを育てることが円滑にできるように準備します。

支援会

スクールの教育活動を経済面から支援します。

施設

教会堂及び教会敷地を使用します。現在、育てるためにふさわしい場所及び施設を計画中。

運営

教会の働きとしておこなう。

札幌キリスト福音館のもとで運営され、教会の使命と一致して働きをすすめます。

費用

両親が定められた費用を支払います。

教会と支援会からの支援により、経済的必要が満たされます。

入学資格・・・小学部・中学部・高等部

スクールの目的と目標を理解し、協力しようとしている保護者が両親で、どちらかがクリスチャンである子弟。

スクールの理念を理解し、入学を希望する児童生徒。

入園資格・・・こどもみくに園（幼稚部）

スクールの目的と目標を理解し、協力しようとしている保護者が両親の子弟。

宗教法人 札幌キリスト福音館 附属

札幌インターナショナル・クリスチャンスクール

こどもみくに園（幼児部）・小学部・中学部・高等部

理事長 三橋 恵理哉
(札幌キリスト福音館 主任牧師)

校長 南部 等志

園長 毛利 晶子

〒001-0027 札幌市北区北27条西15丁目1-28

TEL 011-758-4937 FAX 011-758-4955